

みずな

京都原産で寒さに比較的強く、野菜が不足しがちな冬場に収穫できることもあり、関西では古くから親しまれてきた野菜のひとつ。繊維質が少なく、特有のシャキシャキ感が楽しめることからサラダなど生食用の野菜としても人気。

9月の農作業

平成15年発行：
JAハリマ「活き活き健康野菜づくり」より

作型

耐寒性はかなり強い。暑さには弱いので早まきしすぎない。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	品 種 名
秋植え	■	■	■					○	△	■	■		白糸の滝、白鯨 白茎千筋京水菜(早生、中生、晩生)

○：種まき △：植え付け ■：収穫

畑の準備・定植

土づくり a当たり	
堆肥	300kg
セルカ(有機石灰)	10kg
植え付け1ヶ月前に土と良く混合	
元肥 a当たり	
醗酵鶏糞	30kg
畝立時施用	

- 畝幅100～120cm
- 株間25～30cm (2条間30～40cm)

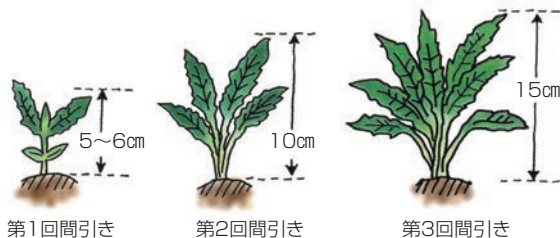
種まき

(60～80ml 準備する)

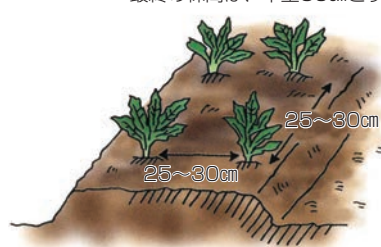
- 条間30cmで2列のまき溝をつくる。
- まき溝は幅15cm、深さ4～5cmを目安とする。
- 薄まきをする。(種子間隔は4～5cm)
- 覆土の厚さは0.5～1.0cm
- まき床が乾燥しないよう切わらをする。
- セルトレーに種まきした場合、本葉3～4枚で定植する。(株間25～30cm 条間30～40cm)

間引き

- 葉がひどくちぢみ、黄化して育ちの悪いものから間引く。
 - 第1回 本葉2～3枚の頃(草丈5～6cm)
 - 第2回 本葉4～5枚の頃(草丈10cm前後)
 - 第3回 本葉7～8枚の頃(草丈15cm前後)
- 最終の間引きの株間は早出で25cm、晩生30cmを目安とする。
- 追肥は第2回と第3回間引き後に野菜専用肥料を4～5kg/a施用する。



最終の株間は、早生30cmとする



防除

病害虫名	耕種防除	薬剤防除
アブラムシ	寒冷紗、透明不織布等のべたがけをする	スタークル顆粒水溶剤 3000倍 収穫3日前まで 2回以内
ヨトウムシ		

収穫

- 早生種は耐寒性が劣るので、年内をめどに収穫する。
- 晩生種は3月頃まで収穫することができる。(パスライト等のべたがけをする)

裏面は雑草図鑑 ハキダメギク・オヘビイチゴを掲載しています。

農作業のページは取りはずして別に保存し活用してください。

No.329 平成30年9月12日発行

ハキダメギク

種子で繁殖する夏生一年草。3月下旬から出芽し、5月下旬に開花する。出芽深度は浅く、種子に冠毛はあるが飛散範囲はあまり広くなく、同じ土地に毎年出現する傾向がある。腐植に富んだやや湿った畑、空き地、道ばたに生育し、やせ地、乾燥地でも生育する。生育期間は4月～10月。春から夏の畑地や樹園地にしばしば群生する。茎は高さ15～40cm。葉は対生し、葉身は卵形で先がとがり、短い柄がある。

防除のポイント

作物の作付け前は、耕起または除草剤で防除する。生育の進んだ固体は中耕、培土または手取りを行い、種子の結実を防ぐ。



サツマイモ畑のハキダメギク



ハキダメギク (開花期)



ハキダメギク (生育初期)

オヘビイチゴ

畦や道端などに多く生育する多年草で、日当たりが良くやや湿った場所を好み、路傍などでも普通に見られる植物です。茎ははって四方に広がり、先はやや立ち上がる。毛があり、根もとの葉は長い柄があるが、茎につく葉はしだいに柄が短くなる。株元近くは長い柄をもった掌状の5小葉が多く見られ、茎上部の葉は3小葉。4～6月に茎先にヘビイチゴに似た黄色い花が咲くが、花床はふくらまず果実もきれいな赤色にはならない。

防除のポイント

発生してしまった場合は、移行性の茎葉処理剤ラウンドアップマックスロード（作物によって使用方法が異なるため要確認）を作物に掛からないように散布する。



休耕田を黄色に染めるオヘビイチゴ



オヘビイチゴ(花)



オヘビイチゴ(5小葉)